



寒さに耐えて冬を越す

ロゼット葉って何？

ロゼットとは、もともと「バラの花」を意味する言葉です。ごく短い茎の部分に葉が地面をはうように放射状に広がり、全体として丸い形になっているものをロゼット葉といいます。

植物にとって光を葉で受けることは生命線です。周りに大きな植物がいたら影に入ってしまう生育出来ません。ロゼットとして生きていけるのは、他の大型植物が生育できないような厳しい環境条件下に限られることとなります。そうでないと普通の植物との競争に負けてしまいます。

では、ロゼットのいいところ・強さはどこにあるのでしょうか。

まず、茎をつくるためのエネルギーを節約でき、そのエネルギーを葉や根にまわして、光合成によるエネルギーを、子孫を残すための糧とできるところです。そして、自分の葉同士が重なるのを防ぐために、葉は茎のまわりに放射状に配置し太陽の光を十分に浴びるようにしているのです。

次に、他の植物が育たない気温の低い冬でも、葉が地面にはりついているので日射で温まった地面の熱で葉温が上昇し、光合成が盛んになる効果があると考えられています。

ほかに、地面に張り付いていると、風で傷つけられにくく、人間の草刈りや動物の食害から免れやすいことも考えられます。

競争相手のいない冬の間エネルギーをため、春、他の植物が育ち始めるころには、茎を長く伸ばして花を咲かせ、子孫を残すのがロゼット植物の生き方なのです。

冬の楽しみは

ロゼット葉探し！

左の写真は、万葉の里で見つけたタンポポのロゼット葉です。でも、葉だけでは何というタンポポなのかは特定出来ません。花が咲くのを待ちます。では、下の【 】内の植物のロゼットはどれかわかりますか。(答えは学習館に掲示)
【スイバ、キツネノボタン、アザミ、オオバコ、ハルジオン】 ※いずれも万葉の里にて



館内展示 「万博で出会う野鳥たち」

今まで姿を見せなかった冬鳥たちを万博公園でたくさん見かけるようになりました。この鳥たちはどこから飛んできたのでしょうか。万博公園で何をしているのでしょうか。そして、いつまでいるのでしょうか。

旅する鳥の生態を展示で読むと、双眼鏡で野鳥を観察したくなりますよ。

【今月の行事】

9日(土) 冬の星座観望会
(受付終了)

10日(日) 冬の野鳥観察講座

16日(土) 野鳥観察会

17日(日) 野鳥観察講座予備日

自然観察学習館

〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園1-1

TEL:06-6877-6923

✉アドレス:expo70gakusyu@cronos.ocn.ne.jp